

議会モニターと意見交換会

2月1日(土)開催 モニター8名出席



午後と夜の2部制でおこなわれ、各2時間にわたり意見交換することができました。ご意見につきましては、今後の議会運営に活かしてまいります。

議会の様子を動画配信することについて検討してほしい。

議員：技術的なこと、財政的なことがクリアできるのであれば、ぜひ早急にそういう方向性でやっていければと思う。
議員：撮るのは全部撮っている。それをリアルタイムで全て配信するのは、職員の関係等からも難しいと思うが、少しずつ前に進んでいくかなという感じは持っている。

町議選があったが、5、6人女性の立候補者がいてもいいのかなと思っている。

議員：女性はどうしても家庭の仕事が多いので、家庭との両立のために、理解と家族の応援が大切だと思う。
議員：地域の関係や、家族の関係で、とても難しいという実感がある。

町議選の投票率が非常に低い率に終わってしまった。この原因は何だろうかということ、議員さんを含めて、もう少し深く掘り下げるべきではないかと思う。

議員：議員活動の細かい情報が、町民にフィードバックされていないので、魅力がなくなってきているという見方もあるのかなと感じている。
議員：若い人達の意見、意識を調査することから、何かヒントを得られるのではないかと感じている。

若者のことは、若者でないとわからない。若者会議は、すごく良い取り組みだと思った。これをぜひ発展させていただければと思う。

議員：新年度で予算化されないと、恐らく一過性で終わってしまうと思う。それでは大変もったいないことだ。
議員：各地域でも始まっているので、今後積極的にやっていくという方向は間違いないと思う。



©嵐山町2011

★前号の訂正とお詫び

前号の記事内容に次のとおり誤りがございました。
3ページ「12月議会補正予算」中の事業名
誤 公共施設個別設置計画策定事業
正 公共施設個別施設計画策定事業
4ページ「議案」中4段20行目
誤 嵐山町立学校適正規模基本計画
正 嵐山町立学校適正規模等基本計画
以上訂正し、お詫び申し上げます。

比企郡町村議会議員研修会

令和2年2月5日(水)、フレサよしみにおいて、埼玉大学大学院理工学研究科教授田中規夫氏を迎えて、「気候変動影響下における今後の治水対策と自治体の対応」荒川流域の治水特性を踏まえて」と題して講演を受けた。

〔講演内容の要旨〕

1まちづくり

- ・外力の増大…堤防で河川側(堤外地)に閉じ込めるのではなく、遊水機能を活用する時代になっている。遊水機能をさらに強化するという発想が必要。
- ・土地利用の規制、誘導がますます重要な時代になる。

2情報収集と伝達

- ・リアルタイムできめ細かな情報を伝える仕組みづくり。
- ・集まった情報を住民まで届けるための担当者の訓練。

- ・住民目線イメージしやすき情報の出し方。

3訓練

- ・小中学校における防災教育、要支援者を含めた防災訓練。



- ・各地区、個人でマイハザードマップやマイタイムラインを作成、活用する仕組みづくり。
- ・組織内での情報伝達上の課題…消防、危機管理などの部署の連携。
- ・要配慮者利用施設の避難、在宅要配慮者の避難誘導…施設、住民と福祉部局の連携。

会派研修(政友会)

全国市町村国際文化研修所(国際文化アカデミー) 主催
第3回市町村議会議員特別セミナー 令和2年1月27日(月)〜28日(火)

政友会では数年前より、様々な研究課題の中から市町村アカデミー(千葉県)の研修を受けるべく参加していましたが、今年は滋賀県大津市にある国際文化アカデミーの研修を遠路ではありましたが受講しました。全国規模の研修であり、市町村議員約200名からの参加でありまして、多くの質問が飛び出すなど、熱の帯びた、活気ある研修会でありました。今回の主催者が目指す講演目的は「日々めまぐるしく変わりゆく国内外の情勢の中で議員は様々な行政課題について学び、施策を提案していくことが求められている」とし、「福祉」という共通テーマのもと、各分野で著名な先生方より地方議員に求められる役割について学ぶこととなりました。

●社会福祉と財政システムについて



全国市町村国際文化研修所HPより

て 京都大学大学院教授 諸富 徹氏
●超高齢社会の現状と地域包括ケアシステムによるまちづくり 東京大学特任教授 辻 哲夫氏

●子ども家庭福祉の現状と課題について 関西大学教授 山縣 文治氏

●障害者の就労と暮らしの支援について 東近江圏域働き・暮らし応援センター長 野々村 光子氏
より、様々な角度から福祉分野を学ぶことができました。今後の自己の福祉学向上、町活性化に生かして行きます。